

|                         |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|-------------------------|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
|                         |  |  |  |  |  | 赤煉瓦倶楽部舞鶴 会報  |  |  |  |  |  |
|                         |  |  |  |  |  | 発行人/会長 吉岡博之  |  |  |  |  |  |
|                         |  |  |  |  |  | 編集人/小野 章   |  |  |  |  |  |
|                         |  |  |  |  |  | 〒625-0062 舞鶴市森973番地の1  |  |  |  |  |  |
|                         |  |  |  |  |  | FAX/0773-63-9764   |  |  |  |  |  |
|                         |  |  |  |  |  | E-mail brick7388@yahoo.co.jp   |  |  |  |  |  |
|                         |  |  |  |  |  | 「赤煉瓦倶楽部舞鶴」ホームページ <a href="http://www.redbrick.jp/">http://www.redbrick.jp/</a> |  |  |  |  |  |
| 赤煉瓦倶楽部舞鶴                |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 会報130号 令和7年(2025年)4月15日 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |

目次

|                       |                        |
|-----------------------|------------------------|
| 1. 舞鶴線開通120周年記念講演会の報告 | 4. 令和7年度赤煉瓦倶楽部舞鶴総会のご案内 |
| 2. 舞鶴の鉄道の記憶(その2)      | 5. 市外視察旅行のご案内          |
| 3. 舞鶴の水道を巡る(第3回)      | 6. 図書のご紹介              |
|                       | 編集後記                   |

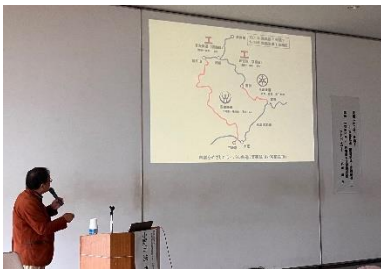
|                       |          |
|-----------------------|----------|
| 1. 舞鶴線開通120周年記念講演会の報告 | 吉岡博之(会長) |
|-----------------------|----------|

さる3月16日(日)午後2時から舞鶴市西駅交流センターで、舞鶴線開通120周年記念の講演会を開催しました。講師の小野田滋氏(公益財団法人 鉄道総合技術研究所アドバイザー)は、昨年11月2日に開催を予定していた120周年記念シンポジウムの基調講演講師としてお越しいただきましたが、大雨警報発令によりシンポジウムが急遽中止となりました。同氏には日を改めて講演したいとのご配慮があり、本講演会の開催が実現しました。

講演の演題は「めざせ、舞鶴！—京都鉄道・阪

鶴鉄道・官設鉄道—」で、質疑を含め約2時間に亘り、海軍舞鶴鎮守府開庁を機に物流・人流を呼び込もうとの鉄道開設に因む歴史的な経緯やエピソード、またトンネルや煉瓦などの鉄道施設について詳細にかつ興味深く語っていただきました。参加者は50名を超えました。

なお、会場には、当倶楽部がこの数年取材した舞鶴線のトンネルや鉄橋に関する報告ボードが展示され、講師並びに参加者の関心を集めていました。(写真：講演会の様子とボードの展示)



西舞鶴駅 (旧舞鶴駅) について

昭和39年当時の京都新聞の駅シリーズの記事見出しを紹介します。

西舞鶴駅 (旧舞鶴駅) の特徴は交通の要衝で貨物輸送を集約し「海との懸け橋」「産業の発展にも一役」「レジャー族の関所」「元は海軍の輸送基地」など。

昭和40年ごろには駅自体の他に、公安室・客貨車区・機関区・車掌区・病院など10の出先機関あり、数百人の職員が配置されていました。駅舎には、めずらしく駅名の看板が設置されていませんでした。その意図は不明でした。

深夜になると各地から集まった貨物列車の編

成を行先別に組み換える「突放」(とっぼう)作業が行われ、連結器のガタの音やSLの汽笛が鳴り響いていました。「突放」とは、機関車が貨物列車を突き放すことで機関車が貨車を連結する際に行う職人技の操作のことです。

西舞鶴車掌区の職員は、名古屋～大社間の急行「大社」を乗務担当することになり誇らしげでした。鉄道電報や鉄道電話の交換所があり唯一女性職員の職場があり、彼女達は「ご意見番」になりました。特急「あさしお」が宮津線を運転し始めた当時、10両編成で食堂車付きの堂々たるものでした。調理は都ホテルが担当でした。



2代目の西舞鶴駅



往時の西舞鶴駅構内



特急「あさしお」10両編成

お召列車について

舞鶴市にも天皇陛下がたびたび行幸啓(ぎょうこうけい)されていますが、写真は昭和43年福井国体から豊岡へのルートで機関車の付け替えのSLがお化粧して待機中のものです。昭和26年のお召列車行幸では東舞鶴駅から西舞鶴まで車列行進があり、私は小学2年生でしたが、遠足で明倫校にてお迎えし、また、当時は新聞社の小旗を振って市民みなでお迎えしました。降り立った東舞鶴駅前広場では同様お立ち台を設け

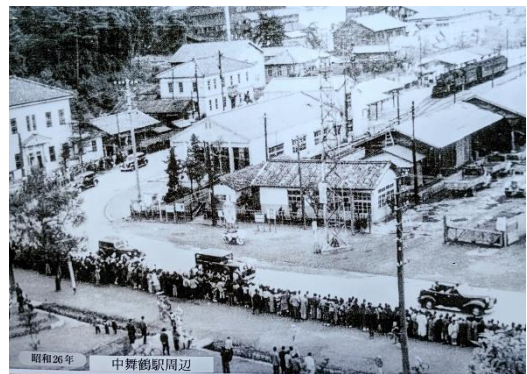
て歓迎行事がありました。

行幸啓によく使われたお召列車には「きまり」がありました。例えば並行して走行してはいけない、立体交差してはいけない、追い越してはならない、10分前の露払い列車運転、列車ダイヤには列車番号無く「お召」のみ表記、機関車は予備機をつける。その他いろいろきまりがありました。(注)行幸啓：天皇・皇后の外出、行幸：天皇の外出



福井国体から天皇行幸 東駅で機関車交代し宮津に

お召列車機関車 (昭和43年)



昭和26年 中舞鶴駅周辺

行幸の様子 (中舞鶴・昭和26年)

舞鶴では良好な水源地として与保呂が選定され、明治33年9月に桂取水堰堤が完成しました。日本最古の石積堰堤（コンクリート重力式ダム）は神戸布引ダム（五本松堰堤）で明治33年3月竣工ですから、桂はその次に古い石積堰堤です。セメントの製造、コンクリートの施工技術がようやく安定してきたため採用したと、設計者であり「日本近代水道の父」である吉村長策博士が述べています。そして表面には張石や煉瓦を施して補強し、意匠的にも美しいものです。堤の中央に洪水吐（放流路）を設けたのは国内初。導水管と排水管を通すために設けられた隧道も、海軍マークや「清徳霊長」の揮毫石板があって、当時の気概を感じさせます。こうしたデザイン

性も、吉村長策の設計の特徴です。

桂の接合井は標高が100mほどあって、北吸浄水場までは自然流下で導水することができたので、ここではポンプが不要でした。水道では一般に堰堤や配水池などの構造物が目立ちますが、その施設を繋いで水を通す「管路」が、じつは縁の下の力持ちという存在です。与保呂水源地から北吸浄水場までは、7インチ口径の鑄鉄管を8600mつないで導水されていました。この管材料は当時の情勢や残された史料から、イギリス製の輸入品を使っただけを最近つきとめました。この管路は後に配水管に転用され、平成17年に最後の区間が更新されるまで、活躍しました。



（放流路上部の構造＝元は開閉ゲートがあった）



（隧道入口＝トンネルの内側も煉瓦積み）

#### 4. 令和7年度赤煉瓦倶楽部舞鶴総会のご案内

吉岡博之（会長）

赤煉瓦倶楽部舞鶴の令和7年度総会を下記の通り開催いたします。7年度は、例年の市外視察については6月に姫路市を予定しておりますが、その他の事業も含めて議題といたします。つきましては、ご出席の有無を同封のハガキにより5月2日（金）必着でお知らせ下さるようお願いいたします。

記

日時： 5月10日（土） 午後2時～  
場所： 舞鶴市森973-1 「アートスペース973」

当倶楽部の令和7年度の市外視察として、兵庫県姫路市の赤煉瓦建築遺産等を訪ねる旅を予定しています。実施日は、6月3日（火）で、内容は、姫路市立美術館（旧陸軍第10師団兵器庫・被服庫）や師団長官舎の他、兵庫県立歴史博物館や書写山円教寺などを訪問します。行程や応募の詳細は、同封のチラシをご参照ください。皆様のご参加申し込みをお待ちいたします。



姫路市立美術館（旧陸軍兵器庫）（姫路市）



書写山円教寺（姫路市）

## 6. 図書のご紹介：「日本駆逐艦全史 1896～1945」

「丸」編集部編 潮書房光人社刊

副題に「明治～太平洋戦争終結まで 296 隻の全航跡」とあるように、旧日本海軍が運用した 300 隻弱の駆逐艦の戸籍簿のような本です。巻末に全駆逐艦のデータシートが付いており、これによると舞鶴海軍工廠（一時舞鶴工作部）で建造された駆逐艦は 60 隻確認することができます。巻末には、1944 年に舞鶴工廠で建造された「冬月」が、1945 年 4 月の戦艦大和の沖縄水上特攻に同行し、大和を護衛する激務に耐えつつ撃沈を免れ、海に漂う大和や矢矧（軽巡）の乗組員 370 余名を救い上げ、帰投した経緯が一文となって掲載されています。因みに、海上自衛隊の護衛艦「ふゆづき」は 2014 年就役後舞鶴の第 3 護衛隊群に配属され、入港時に艦長は「ふゆづき」が 70 年ぶりに戻ってきました」とあいさつしました。本書は市図書館にあります。（本体：3,000 円）



## 編集後記

120周年記念講演会の際に西舞鶴駅前整備工事を拝見した。この駅舎は全面ガラス張りの意匠が斬新だが、施工中の車寄せの屋根は高く角張ったテント状に連なり、ガラス面もかなり遮られるようだ。対する東舞鶴駅の車寄せの屋根は丸みを帯びた控えめな意匠で駅舎もよく見えている。個人的意見だが、西駅舎の現代的ガラス張り、広場の江戸時代風の時計台、施工中の車寄せの屋根は、各々が独自の個性を主張していて、いわゆる調和（ハーモニー）が欠けている感じがする。ともかくも、西駅前の整備がつつがなく終了し地元民から祝福されることを祈りたい。

令和7年度会費につきましては、現在会費を集めない方向で検討しており、会費の振込みはお控え頂きますようお願い申し上げます。なお、総会後、会費の徴収の有無につきまして改めてお知らせいたします。